平成４年度

丸亀市内遺跡発掘調査概要報告書

丸亀市教育委員会

はじめに

丸亀市内には旧石器時代から現在まで、各時代を通して多種多様な遺跡が存在しています。市内の代表的な遺跡は昭和51年度と昭和56年度の発掘調査によって確認された弥生時代前期の遺跡である中の池遺跡、吉岡神社前方後円墳、青の山古墳群、塔心礎の残る古代寺院跡の宝幢寺跡、近世城郭の史跡丸亀城跡などあります。丸亀平野は条里が残り、古代から開けた土地であります。三条・五条等の荘園に係る地名、地頭・領家等の荘官に係る地名も残っており、那珂郡・多度郡の郡司庁跡が所在していたと推定されています。また、眼前には西国の大動脈である瀬戸内海が広がり、南海道も通過していたことから陸・海交通路の要衝であったことが伺われます。

丸亀市内の埋蔵文化財調査事業は丸亀平野の歴史を知る有効な手段であり、今後市内域で埋蔵文化財調査が活発になれば、丸亀平野の歴史を省みる有効な資料となるでしょう。

丸亀市教育委員会
教育長　石田　薫

例　　言

1．本書は丸亀市教育委員会において、平成４年11月24日から平成５年２月26日まで実施した国庫補助事業による丸亀市内遺跡の発掘調査概報書である。
2．発掘調査は、丸亀市教育委員会文化課主事　東　信男が担当した。
3．本書については、東信男が執筆・編集をした。
4．発掘調査には、作業員として金倉地区で宮武進、宮武新、宮武貞子、樋笠和子、三村武雄、三村ノブエ、郡家地区で堀家守彦、寒川芳子、山川温子、桑山美代子、青の山地区では、多田和代、東幸功の諸氏にお世話になった。
5．笹川龍一氏（善通寺市教育委員会）、片桐孝浩氏（財団法人香川県文化財センター）に適切なご指導をいただいた。また、香川県教育委員会文化行政課埋蔵文化財担当諸氏のご助言・ご指導を得たので、許して謝意を表します。

目　　次

1．調査の概要と経過 …… 1
2．金倉平池南地区 …… 2
　（A）概　要
　（B）土　層
　（C）遺　構
　（D）遺　物
　（E）まとめ
3．郡家辻地区 …… 4
　（A）概　要
　（B）土　層
　（C）遺　構
　（D）遺　物
　（E）まとめ
4．青の山古墳群 …… 6
　（A）概　要
　（B）土　層
　（C）遺　構
　（D）遺　物
　（E）まとめ

図版目次

1．丸亀市内地図 …… 1

2．金倉平池南地区　①金倉平池南地区平面図 …… 3

②C区西壁土層断面図

3．郡家辻地区図面　①郡家辻地区平面図 …… 5

②A区東壁土層断面図

③B区西壁土層断面図

④C区南壁土層断面図

4．青の山古墳実測図 …… 7

5．金倉平池南地区調査前写真 …… 9

6．金倉平池南地区A区出土土器片写真 …… 9

7．金倉平池南地区C区遺構検出写真 …… 9

8．金倉平池南地区埋め戻し完了写真 …… 9

9．郡家辻地区写真調査前写真 …… 10

10．郡家辻地区A区検出木桶写真 …… 10

11．郡家辻地区写真C区土層 …… 10

12．郡家辻地区写真埋め戻し完了写真 …… 10

13．青の山南麓支群2号墳写真 …… 11

14．青の山南麓支群2号墳玄室写真 …… 11

1．調査の概要と経過

平成４年度国庫補助事業により、丸亀市内に所在する遺跡の確認調査を行うこととなり、今年度は金倉地区、郡家地区、青の山古墳群を対象とした。

金倉地区の調査は、丸亀市金倉町 885番地の2 及び同 885番地の4 の平池埋立地で実施した。この付近一体は、平池北側で昭和51年度と56年度の２回にわたる発掘調査により、中の池遺跡（弥生時代前期）の発見があり、今回は未調査である平池南側で遺跡の有無を確認するために試掘調査をした。地区の名称は「平池南地区」としてトレンチを設定し、土層序・遺構の有無を確認をした。

郡家地区は丸亀市郡家町1525番地の1 で調査した。昭和63年度に財団法人香川県埋蔵文化財センターの発掘調査によって、五条遺跡、三条黒島遺跡などが確認されており、調査地区から西へ約 600mのところに古代寺院跡の宝幢寺遺跡もあり、古代から近世にかけての遺構の存在する地区として知られている。調査地区名は「郡家辻地区」

1．丸亀市内遺跡地図（１／100,000 ）

として、金倉平池南地区と同様の調査を行った。

青の山地区は、土器町東四丁目89番地に所在する横穴石室を持つ青の山南支群２号墳の地形及び墳丘測量を実施した。

２．金倉平池南地区

（A）概　要

平成４年11月24日から平成４年12月10日まで、地区内にＡ区～Ｆ区の６か所計約１７０m² のトレンチ調査を実施した。調査地区の中央部に、平池へ注ぐ南北水路があり、水路の東側地区東北端のＡ区及び南端中央部のＣ区で遺物の出土及び遺構を検出した。他の調査区では、平池造成による破壊を受けていた。

（B）土　層

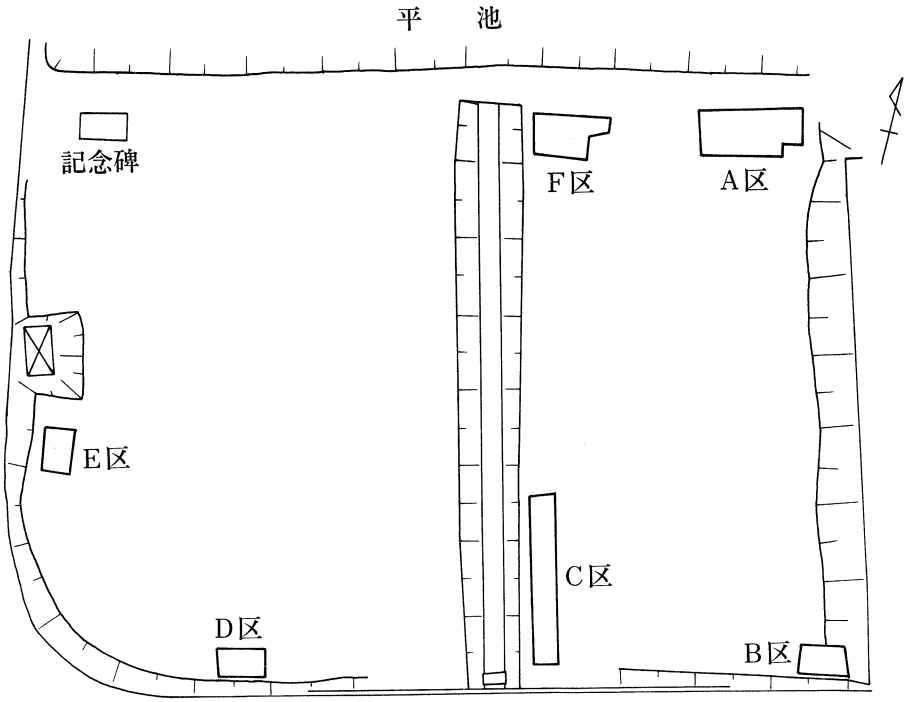
Ａ区の土層序は、地表から第12層暗灰色細砂層にかけて、堤を造成した時の客土である。堤の築造のために使用した客土の中で、第９層暗灰色粘質土層から第11層暗灰色粘質土層にかけて遺物包含層があった。サヌカイト片や弥生時代の土器片を包含しており、プラントオパールも検出された。以下、第13層灰白色粘土層、第14層灰白色小石層、第15層灰色細砂層となっている。

Ｃ区の土層からも同様に平池堤の造成面を確認した。表土から約 1.7m下の第５層で、堤の造成や改修による客土の堆積である。特に第５層では何層にも分層でき、部分的に遺物を包含している層がある。以下、第６層灰色粘質土層、第７層暗灰色粘質土層、第８層黄褐色粘質土層となっており、第８層黄褐色粘質土層の直上からピットを検出した。

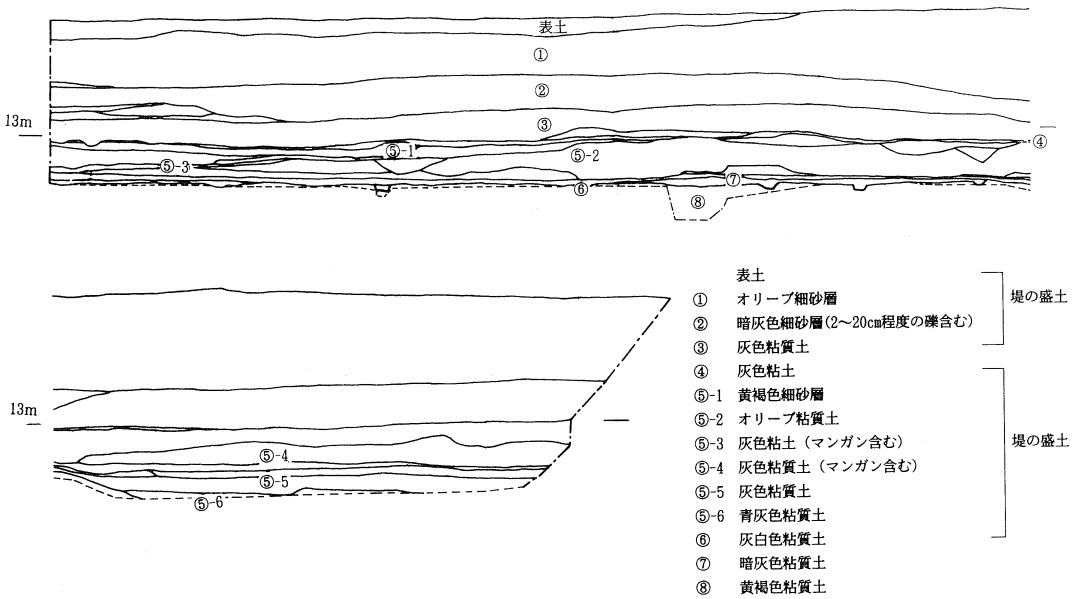
（C）遺　構

Ｂ・Ｄ・Ｅ・Ｆ区は平池内であり、遺構の検出はなかった。

Ａ区とＣ区は平池堤にあたり、遺構及び遺物の有無を確認できる唯一の調査区であった。Ａ区・Ｃ区の堤とも数回にわたる造成が確認され、明確に二期の面が確認された。初期造成時の堤は低く、Ａ区では部分的な攪乱があり、近世磁器や煙管の出土があった。堤の造成にあたり、旧土層を掘削し、客土により造成したものであった。Ｃ区も同様に明確に二期の造成面が確認された。初期堤地面には攪乱層はなく、遺物の出土はなかったが、土層の状態及び地面レベルからＡ区と同時期の造成であると推定される。Ａ区・Ｃ区とも江戸時代の堤築造に用いた客



① 金倉平池南地区平面図　（S＝1/800）



② C区西壁土層断面図　（S＝1/80）

土中から遺物の出土があった。A区では、サヌカイト片及び弥生時代の土器片が出土、C区からは須恵器や土器片等が出土した。周辺部の土砂を運び込み、堤の築造に使用したものであると考えられる。また、A区の第8層黄褐色粘質土の直上から時期不明のピットを確認した。このピットは17あり、径15cm～20cmで深さ10～25cmのものが多く見られ、径については20cmのピットが7、深さについては17～20cmのものが7、ついで10～13cmが4と続く。ピット中の埋土は暗灰色粘質土で、豆粒程度の土器片が混入していた

（D）遺　物

A区とC区から遺物の出土があった。A区は第11層暗灰色粘質土の上層から弥生時代前期～中期の土器片が出土した。C区は近世磁器や煙管が出土した。第6層下部からは須恵器及びサヌカイトの出土があり、第7層から土器片が出土した。

（E）まとめ

今回の調査地は池の埋め立て造成地であるため、明確な遺構の検出はなかったが、A区の池堤の盛土中から、サヌカイト片及び弥生時代の土器片が出土した。また、この包含層からプラントオパールも検出されている。C区からは時代の確定はできないが、ピットが検出された。また、平池の北側に中の池遺跡が展開することもあわせて、溜池等の破壊を受けていない周辺地区には遺構の存在する可能性が十分にありえる。

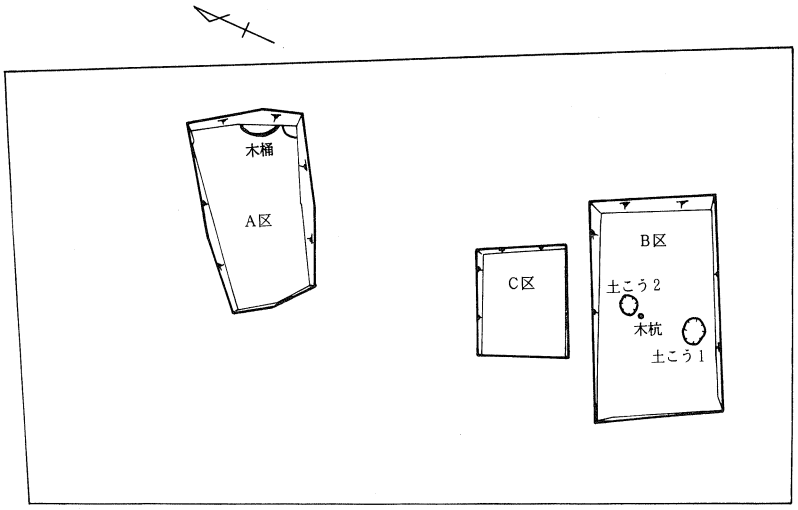
3．郡家辻地区

（A）概要

平成4年12月11日から平成4年12月25日まで、調査地区内にA～C区、3か所計約40m^2 のトレンチ調査を実施した。検出した遺構は近世以降の土こうや木桶であり、遺物も近世以降の陶磁器、瓦、半銭等が出土した。水田耕作により、近世以前の遺構面は削平されていた。

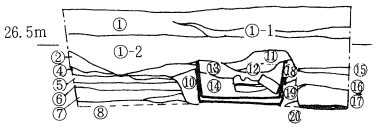
（B）土層

A区～C区とも同様の土層であり、表土、第1層黒色粘質土層、第2層灰色粘質土層、第3層灰白粘質土層（マンガン含む）、第4層黒灰色粘質土層、第5層オリーブ粘質細砂層、第6層灰色細砂層（マンガンを含む）、第7層灰白色細砂層、第8層灰白粘土層（小石含み）である。



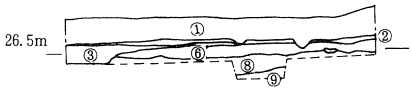
① 郡家辻地区平面図　（S＝1/200）

郡家辻地区土層断面図　（S＝1/80）



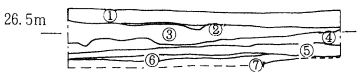
② A区東壁土層断面図

① 黒色粘土質土（耕作土）
①-1まさ土
①-2灰色粘質細砂層（攪乱層）
② 灰色粘質土
④ 黒灰色粘質土
⑤ オリーブ粘質細砂層
⑥ 灰色粘質細砂層（マンガン含む）
⑦ 灰白色細砂層
⑧ 灰白色粘質土（小石含む）
⑩ 灰色粘土（木桶　掘り込み）
⑪ 灰白色粘質細砂層（マンガン含む）
⑫ 灰色粘質土　（木桶内）
⑬ オリーブ粘質土　（木桶内）
⑭ 灰色粘質土　（木桶内）
⑮ 灰白色粘質土（マンガン含む　木桶内）
⑯ 灰白色粘質土　（木桶内）
⑰ 灰白色粘質土　（木桶内）
⑱ 灰白色粘土
⑲ 灰白色粘土
⑳ 青灰色細砂層



③ B区西壁土層断面図

① 黒色粘土質土（耕作土）
② 灰色粘質土
③ 灰色粘質土（マンガン含む）
⑥ 灰色粘質土
⑧ 灰白色粘質土(小石含む)
⑨ 黄褐色小石層



④ C区南壁土層断面図

① 黒色粘土質土（耕作土）
② 灰色粘質土
③ 灰色粘質土（マンガン含む）
④ 黒灰色粘質土
⑤ オリーブ色細砂層
⑥ 灰白色細砂層
⑦ 灰白色細砂

（C）遺構

A区から木桶を検出した。径90cm・高さ45cmで２つ並んでおり、北側のものは、ほぼ完形に近く、南側のものは底部のみ残存していた。木桶の上に陶器を覆い、野壺として使用したものであろう。桶内から陶器編、瓦片、古銭（半銭）が出土した。所々に攪乱を受けており、陶磁器片瓦片が出土した。塵捨てとして使用したものであろう。

C区から土こう２つを検出した。土こう１は径約60cm・深さ約15cm、土こう２は径約40cm・深さ約20cmで、遺物の出土は無かった。土こう２から南側へ10cmの所に木杭があった。長さ36cm以上、径 3.5cmである。

（D）遺物

遺物は整理中であるので、詳細は省く。陶磁器はすべて近世以降のものである。瓦片も同時代のものである。古銭は年号の確認はできないが、明治時代に鋳造された半銭が木桶内から出土した。このたびの調査では中世以前の遺物は出土しなかった。

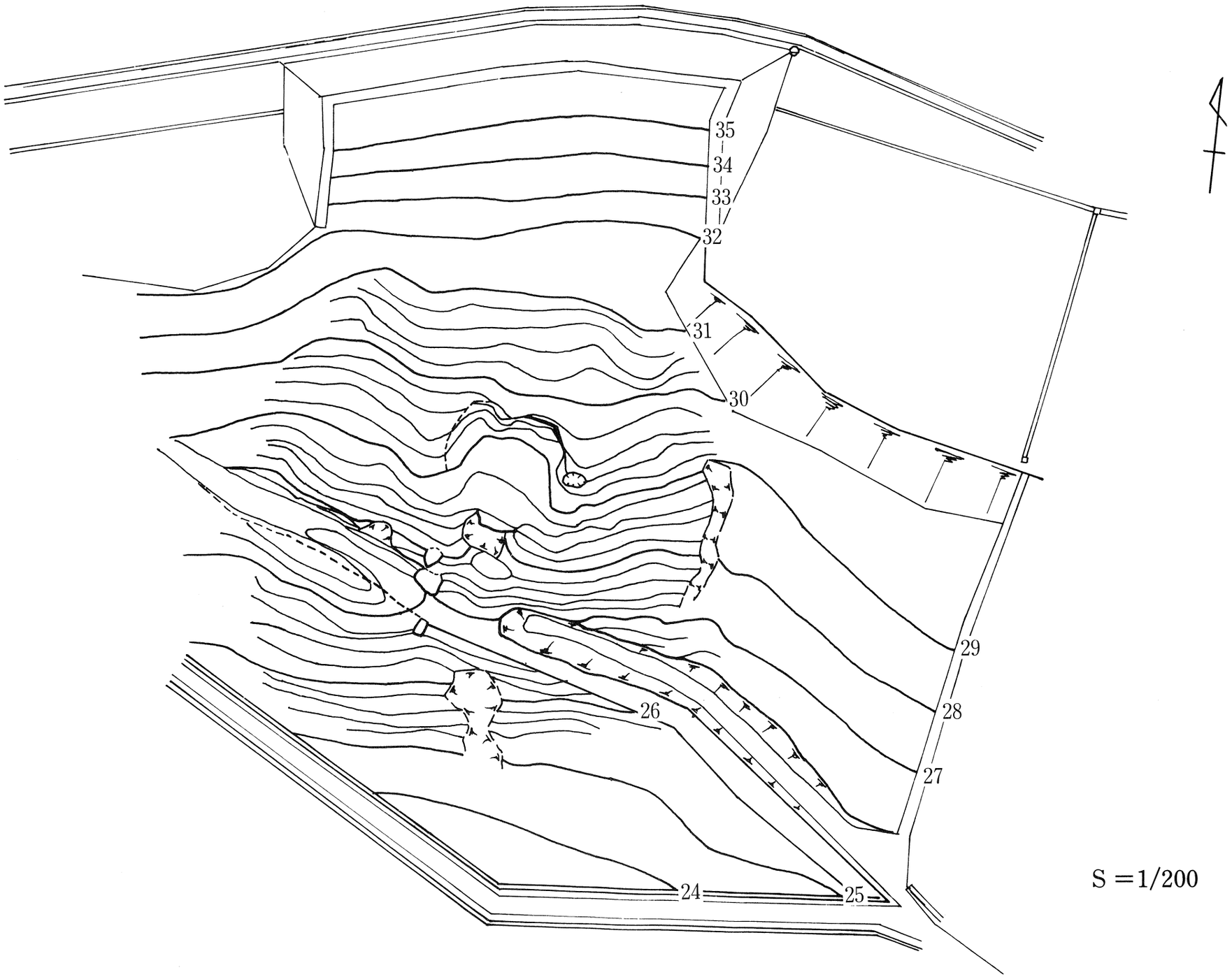
（E）まとめ

当調査地区では水田耕作により、中世以前の遺構面が削平されていた。宝幢寺跡北側地区の地面高と比較しても、辻地区は低く、遺構面が水田耕作により削平されている可能性が高く、遺構の残存状態はあまり良好とはいえない。

３．青の山古墳群

平成５年１月19日から平成５年２月15日まで地形測量を、平成５年２月23日から平成５年２月26日まで青の山南麓支群２号墳の墳丘測量を実施した。

青の山古墳実測図



S =1/200

写　真

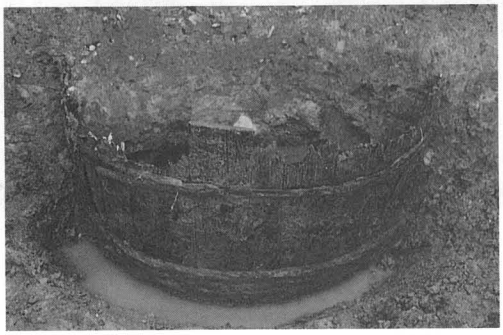
金倉平池南地区調査前

金倉平池南地区Ａ区出土土器片

金倉平池南地区Ｃ区遺構検出

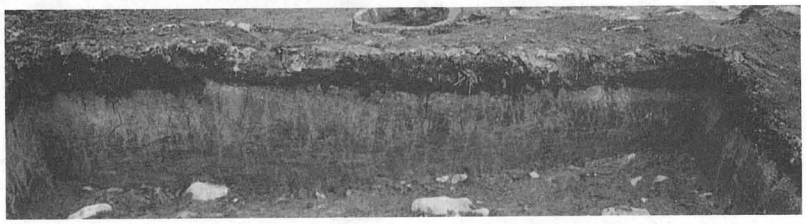
金倉平池南地区埋め戻し完了

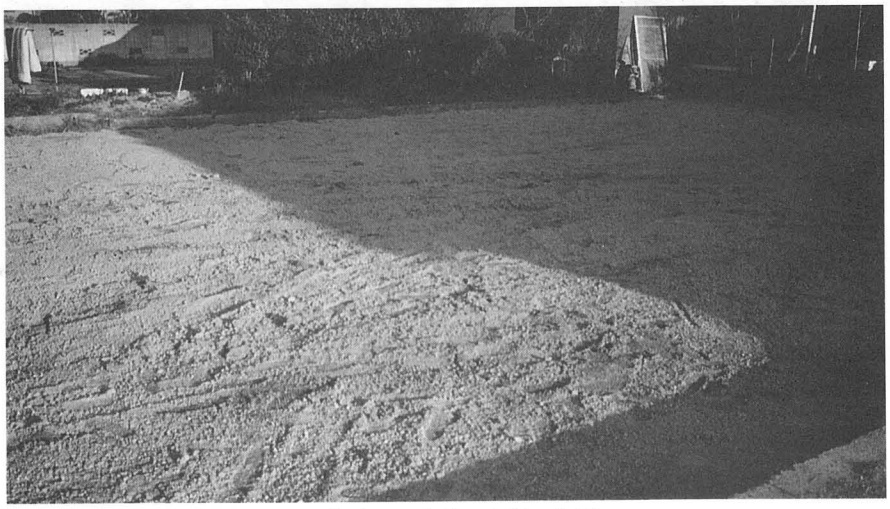
▲郡家辻地区調査前



◀郡家辻地区A区検出木桶

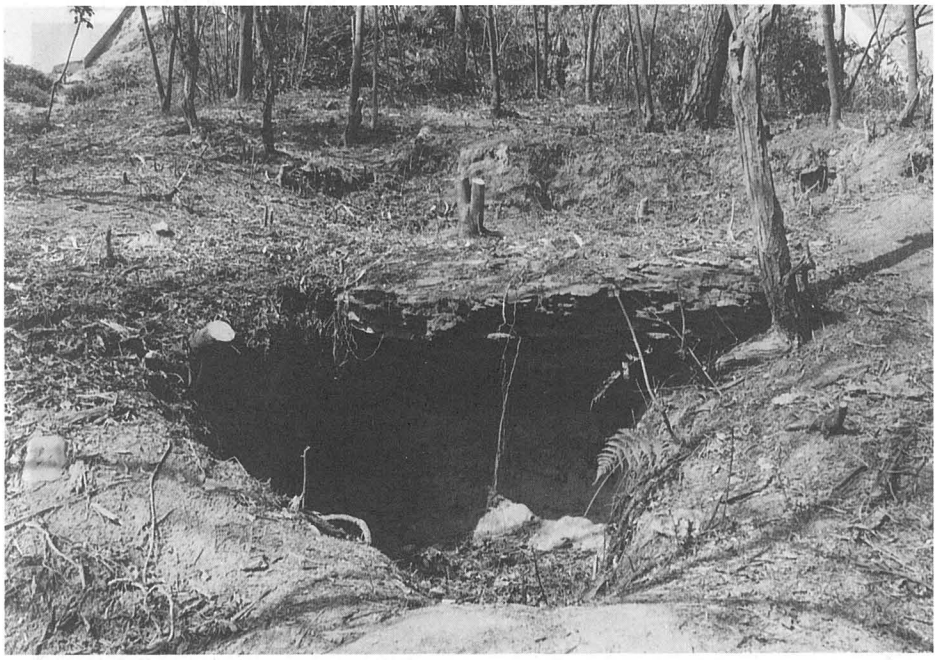
▼郡家辻地区C区土層





郡家辻地区埋め戻し完了

青の山南麓支群２号墳



青の山南麓支群２号墳玄室